

## 令和5年度 アンケート結果のまとめ

- 以下の説明の際、「よくあてはまる」「ややあてはまる」の2つの回答合計の割合を示す。  
(A評価…80%以上、B評価…60%以上、C評価…40%以上、D評価…40%未満)

### 1 学校経営

- ・各項目において、自己評価・学校関係者評価ともに「A」評価であり、校長の経営方針に従って、本校の充実した教育活動が評価されている。
- ・生徒アンケート項目「私は毎日充実した学校生活を送っている」の割合が94.8%、保護者アンケート項目「子どもは毎日充実した学校生活を送っていると思う」の割合が93.8%、と共に高い評価を得ており、学校生活全般に対する満足度が高いことがうかがえる。
- ・「学校は子どもの学力向上について熱心に取り組んでいると思う」と答えた保護者の割合は昨年度80.6%から79.7%と減少した。もともと高評価で下げ幅は少ないが、引き続きTeamsを活用した課題や一人一台端末を活用した授業改善など、取組の工夫が求められる。

### 2 学習指導

- ・生徒アンケート項目「授業内容の説明は、丁寧でわかりやすいものが多い」と答えた者の割合が82.1%で、前年度を上回っている。その他にも「副教材(プリント)のわかりやすさ」96.5%、「熱意のある授業」86.3%といった項目も高い数値を示している。わかりやすく、興味を持つことのできる授業が多いことがわかる。ICTを活用した授業を推進してきたことが効果を上げているのではないかとと思われる。
- ・「実験・実習など理解を深めるための体験がうまく取り入れられている」に関しても昨年度91.0%から今年度93.5%と増加したのは、「主体的・対話的で深い学び」につながるような授業改善を行っている成果と思われる。
- ・「学習習慣の確立」の項目において、生徒アンケート項目「予習・復習をするようにしている」では41.3%、保護者アンケート項目「子どもが家庭で学習している姿を以前よりよく見る」では61.3%であった。現在行われている学習時間調査やスタディ・サポート等のデータを分析して生徒の実態を把握し、効果的な方法を考え具体化していく必要がある。よって、学校関係者評価を「B」とした。

### 3 生徒指導

- ・各項目において、自己評価・学校関係者評価ともに「A」評価である。
- ・生徒アンケートの規律の遵守に関わる項目についてはどれも高い評価である。規範意識の高い生徒が多いことがわかる。
- ・いじめに係るアンケート(年3回)を活用し、丁寧な個別面談を実施するなどして、いじめの早期発見・早期対応に努め、いじめ対策委員会を随時開いて組織で対応していることが高評価につながっている。引き続き、いじめの未然防止等の取組(啓発活動、アンケート等)をより一層進めていきたい。

### 4 進路指導

- ・生徒アンケート項目「学校では進路に関わる情報が提供されている」の割合が昨年度89.7%から91.9%、「先生は進路についての話や適切なアドバイスをよくしてくれる」の割合が昨年度78.3%から83.1%と今年度増加している。
- ・保護者アンケート項目「学校は就職や進学に関する進路情報を十分に提供している」に関しては、昨年度74.8%から72.3%と減少している。進路情報の積極的な提供や進路について考える機会を増やしたことで、「生徒の進路意識を高揚する指導」がなされてはいるが、保護者からは「進路に関する情報提供や資料の適切な収集」については概ね満足という結果となっている。よって、学校関係者評価を「B」とした。
- ・保護者に対する情報提供の機会を増やし、三者懇談、保護者進路説明会、HP等で十分に情報が伝わるよう工夫していく。

### 5 特別活動等

- ・各項目において、自己評価・学校関係者評価ともに「A」評価である。
- ・昨年度課題として挙げられていた「教職員の共通理解と協力体制の下、部活動の活性化が図られている。」の割合が昨年度78.0%から93.0%と増加した。家庭事情や分掌業務等で顧問内の業務負担に偏りはあるが、各顧問の部活動への意識改革や業務の割り振りが進んだ結果とも言える。まだまだ協力体制の構築をはじめとした改善策の検討が急務である。

- ・生徒アンケート項目「部活動にやりがいを感じている」の割合が75.5%、保護者アンケート項目「学校での部活動に生き生きと取り組んでいる」の割合が78.5%であった。決して低い評価ではないが、他項目と比較すると数字の低さが目立っている。部活動への認識の変化から「やりがいを感じる」までには至らない現状があることを認識しつつ、生徒がより高い目標をもって主体的・意欲的に取り組めるよう効果的な指導・支援の在り方を模索し、改善につなげていく必要がある。

## 6 学校図書館

- ・生徒アンケート項目「学校図書館を利用したことがある」は58.6%、「教科の課題も含めて月に1冊以上の書物（マンガを除く）を読んでいる。」は41.2%、と共に低い。教員の意識としては、司書を中心に、生徒の読書傾向を探り、特別企画を行ったり、図書・視聴覚教材を活用したりするなど、積極的に取り組んでいるためA評価となっているので、教員と生徒の意識にかなりの差がある。よって、学校関係者評価を「B」とした。
- ・SNSやスマートフォンの普及により、書物や新聞、漫画でさえ「デジタル化」が進んでいるため、わざわざ学校図書館に行って書物を手に取るのが少なくなる傾向にあることは言うまでもない。そのような時代にあって、本の良さを伝えるにはどのような改善策があるのか、引き続き検討が必要である。

## 7 保健・安全指導

- ・各項目において、自己評価・学校関係者評価ともに「A」評価である。
- ・生徒アンケート項目「私は悩みや相談事があれば気軽に話せる先生がいる」とする割合が年々増加しており、今年度は66.4%となった。悩みを抱える生徒や支援の必要な生徒にとって、先生方が頼れる存在であり、保健室と学年が連携して、丁寧に対応してきた結果が徐々に出てきていると思われる。

## 8 人権教育

- ・各項目において、自己評価・学校関係者評価ともに「A」評価である。
- ・生徒アンケートにおける人権教育に関する項目については、「人権学習を通して人権尊重の意識が高まったと思う」「人権学習について熱心に取り組んでいると思う」の割合が9割前後を占めるなど、高い評価である。年間計画を緻密に立て、新たな取組を取り入れながら、グループワークや講演会など、深い学びに向けて全職員で支え、実践してきた結果である。

## 9 環境教育

- ・各項目において、自己評価・学校関係者評価ともに「A」評価である。
- ・「清掃活動」に関する項目は9割5分以上の生徒がしっかり取り組んでいる、と答えている。
- ・総合的な探究の時間等を利用しながら清掃活動にとどまらない「環境教育」に取り組む。

## 10 事務・管理

- ・各項目において、自己評価・学校関係者評価ともに「A」評価である。
- ・施設の老朽化が激しく改修の必要な箇所が多いものの、順次改修や修繕が進んでいる。

## 11 その他学校の取組み

- ・各項目において、自己評価・学校関係者評価ともに「A」評価である。
- ・今年度は学校運営協議会（コミュニティ・スクール）導入3年目で、大変充実した協議会を開催することができ、開かれた学校づくりを進めることができたとともに、特色ある教育活動の充実に努力している。